



みらい通信

第60号

発行元 NPO法人紫波みらい研究所
 連絡先 〒028-3318
 岩手県紫波郡紫波町紫波中央駅前1-2-2
 電話 019-671-2244
 FAX 019-671-2243
 Email miraiken@shiwa-mirai.com
 発行日 平成25年 8月23日(金)

■ 国学院大学里山づくりプロジェクト10周年記念事業

8月4日(日)紫波町情報交流館大スタジオで、「森づくりからまちづくり」と題し、NPO 法人樹木・環境ネットワーク協会理事長澁澤



講演 澁澤壽一さん

壽一さんによる基調講演を町と共催で行いました。

会場には里山づくりプロジェクトの間伐体験に参加している国学院大学の学生やOB、これまで受け入れをしていただいた地域住民など、たくさんの方々に参加いただきました。



今年の間伐現場で
山主の漆澤さんとお話をする澁澤さん

講演後は澁澤さんをコーディネーターに、これまでプロジェクトにかかわったパネリストと会場の皆さんと一緒に参加する形のパネルディスカッションを実施し、このプロジェクトのきっかけや学生が参加して感じた思いを聞くことが出来ました。



パネリストのみなさん



国学院大学の学生達による
宮澤賢治の「星めぐりの歌」

場所をラ・フランス温泉館の交流プラザに移し、10周年記念祝賀会も開催。

受入れ地区からその当時のエピソードを聞き、会場はおおいに盛り上がりました。学生の余興の歌の最後に学生と会場みんなで「ふるさと」を熱唱。ウルウルでした。

今後の里山づくりプロジェクトにつながる思いを共有できた祝賀会でした。

国学院大学里山づくりプロジェクトとは

紫波町と国学院大学、NPO 法人みらい研究所との協働事業。地元住民と学生が間伐作業や民泊などの交流を通して、人の環をつくり、森林資源や地域の持つ潜在資源への関心を高めながら、循環型のまちづくりにつなげていくことを目的としています。

■ 國學院大學里山づくりプロジェクト in 片寄地区漆立



8月2日～4日までの3日間、片寄地区漆立公民館を拠点に、今年10年目となる里山づくりプロジェクトを実施しました。

2日の早朝に到着した学生たちは、藤原町長による「循環型まちづくり」についての講話を聴き、間伐の意義を確認。

作業には学生、OB、学校職員、なんと中学生も含む37名が参加。地元や指導も含めると総勢60名。現場は平成9年5月の大火の後、スギを植林しましたが、手入れができていない状態。届く範囲での枝を落とし、除伐をしていく作業などを6班に分かれて行いました。



大明神堤で昼食

学生たちは、森林ボランティアや地元住民との作業を通していろんなことを学び、感じてくれたことでしょう。

5日には平成18・19年に間伐した彦部石ヶ森地内の「是信房の墓」周辺を見学。当時参加したOBは、雨が降る中での作業で大変だったことを後輩たちに伝えながら、その後もあじさいなどが植えられている様子を眺め、とても感慨深げでした。

「10年やってみよう」と始めた里山づくりプロジェクト。

この10年間で國學院大學のみなさんが紫波町に根付かせた「結い」の思いを 今後、どんなかたちで進めていくか、転機を迎えています。



石ヶ森で
間伐をしたOB

＝ 事業報告 ＝

■ 森のあそび場 “りんくる 夏”

8月18日(日)紫波フルーツパークで“りんくる 夏”を9家族22名の参加で実施しました。

子どもたちは森の中で、ロープのブランコや丸太シーソーに乗ったり、秘密基地を作ったりして楽しみました。

お昼は流しそうめん！子どもはもちろん、大人たちも流れてくるそう

めんやそば、ミニトマトやブルーベリーを夢中になってすくい、お腹いっぱい食べ、満足！満足！

また、森で採ってきた枝に花や葉っぱを貼った和紙をつけ、涼しい「森うちわ」をおみやげに持ち帰りました。



■ 視 察



8月22日(木) 山形県庄内総合支庁環境課と NPO 法人環境ネットやまがたの16人が、紫波町の循環型まちづくりとラ・フランス温泉館に導入した再生可能エネルギー設備の視察に来ました。



紫波みらい研究所では、町民を対象とした「循環型まちづくり」や「再生可能エネルギー設備」の説明・見学会を常時実施しています。皆さんの申し込みをお待ちしています。

■ しわエコ連絡会初めての協働事業

古着はゴミなんかじゃない！
ドンドンアップの岡本氏が
お財布にも、環境にもやさしいしくみを教えます



平成
25年

13:30~15:30
(火曜日)

場所:紫波町中央公民館 2階研修室
〒028-3305 紫波郡紫波町日詰下丸森 24-2

主 催 : しわエコ連絡会

(紫波町環境衛生組合連合会・紫波町ごみ減量女性会議環境マイスター紫波・NPO 法人紫波みらい研究所)

お問合せ TEL019-671-2244(紫波みらい研究所内)

注目企業のお話が聞けます
どなたでも参加できます



講師 岡本昭史氏

株式会社ドンドンアップ 代表取締役



ことのは



「へちま」漢字で書くと「糸瓜」となります。「糸」に「へ」とか「へち」とかいう訓みはありませんし、「瓜」にも「ま」とか「ちま」とかいう訓みは無い。いわゆる熟字訓というやつですが、なぜ「糸瓜」と書いて「へちま」と訓まれるようになったのか...

もともとは「糸瓜」と書いてそのまま「いとうり」と呼ばれていたものでしたが、それが江戸時代になったときに頭の「い」が抜けて、「とうり」と呼ばれていました。江戸の町民たちは言葉遊びが大好きで「とうり」の「と」に注目して、いろは歌の中では「と」は「いろはにほへとちりぬるを」の通り、「へ」と「ち」の「間」にあるということで、「と」を「へちま」と置き換えて「へちまうり」と呼び始めたのが定着して、現在でも「へちま」と呼ばれています。

この、「へちまの語源」は高校のときにちょっとしたブームになっていた日本語についての雑学本で知って以来私の定番にしているのですが、「へちま」がきっかけで、日本語に対する興味が湧き、間伐体験で毎年紫波町に来ている國學院大學を目指したといっても過言ではないコトバです。大げさに言えば、こいつが「いとうり」のままだったら、私の人生は大きく変わって、紫波町との出会いもなかったと言えるのです。

たった一つのコトバには計り知れない力がある。言霊とでもいうべきなのか、そういう力があるということ私は信じているのです。

(ちなみに画像は十角へちまという琉球野菜です)

こかげのうえん 関 大輔

「こかげのうえん」の野菜セットの注文については 080-1206-7214 関まで



■ 9月～10月の事業 みなさんの参加お待ちしております

- | | |
|-------------------|---|
| 8月30日(金) 18時～ | またあした倶楽部部会 |
| 9月 3日(火) 13時30分～ | 講演「古着はゴミなんかじゃない！」
講師：(株)ドンドンアップ 代表取締役 岡本昭史氏
場所：紫波町中央公民館 2階研修室 |
| 4日(水) 14時～ | 食話倶楽部部会 |
| 14日(土) 13時～ | キッズフェスティバル in あらえびす
内容：吉里吉里虎舞講中、雫石高校郷土芸能委員会他
場所：野村胡堂・あらえびす記念館 |
| 29日(日) 8時～15時 | 「山王海を知ろう！親子ふれあい研修」
内容：役割を学ぶ&自然観察会 |
| 10月26日(土) 10時～15時 | 「しわエコまつり」
内容：子どもたちに楽しく環境について知ってもらう
場所：ナックスホール |

〔 編集後記 〕

8月9日の「経験したことの無い大雨」は、紫波町にも甚大な被害をもたらしました。朝の時点でも全く予測していなかった今回の大雨は、来るとわかっている台風とは違って、3.11の地震、津波などと同じような怖さがありました。

インターネットで雨雲レーダーを見て1時間程度の予測はできましたが、次から次と発生する雨雲は気象庁もわからなかったとのこと。局所的な大雨のため状況がつかめず、どこが通行止めなのかも人からの聞き伝えで情報収集しておりました。

1000年に1度の大地震、100年に1度の大雨。
備えあれば憂いなし・・・しかし自然の力には及びません。

